公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団　2024年度休眠預金等活用事業「南大阪子育て支援ハブ形成プロジェクト」申請団体一覧

	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	東深井つどいば食堂ふらっと	堺市中区	誰もが学び集える居場所作りと地域の相談窓口	みんなの居場所作りとこども食堂 従来の活動は平日週2回と土日 月１回であるが、今後は常設型を目指し平日週3回～4回、土曜日 月2回と回数を増やし、不登校児童の居場所や学習支援、大人の集いばなどをより参加人数を増やすために内容強化していく。不登校児童の居場所の拡張の向上とは、週1回の開催は変わらないが現状の参加人数を倍に増やして、学習の定着、学習意欲を高めていき、自己肯定感を上げることで、将来の選択肢を増やしていく。運営や奨映受験も検討。後ごは人提供は現在月2回程度だが、週1回に増やし参加人数を増やす。土曜日は地活協とも連携でワークショップやイベントなどを開催し、こどもの居場所の周知や協働を図ってくれる人や企業を増やす。 現状の開催日数より開催頻度を増やしていくことは、現在参加している 又は参加できていない人からの希望として声が出ており、日数を増やすことで、より多くの人が自分のニーズに合った内容や時間帯などで参加できるようになり、支援や見守りの人数を増やすことができる。そして、地域の中で気軽で安心安全な相談窓口として認知が増えていくことで、より多くの人の拾い上げが可能となる。 将来型全ては未より様のない取り組みをすることができれば、この居場所事業に専属で従事できるスタッフが増え（現在は全員本職の傍らでの作業）より安定した居場所運営が可能になる。
2	あたごプラザ協議会	阪南市	舞校区 みんなの居場所プロジェクト	敬治会や子ども会等への参加者が減少し、子ども会については2025年度で終了することが決まる中、これら地域活動の衰退を改善することは喫緊の課題と認識し、「あたごプラザ」を拠点として、これまでの高齢者を中心とした「地域住民の生涯学習と地域福祉の増進を図る場」に加え、①「楽しい地域交流を体験することが当たり前と認識し、地域の中で自立していく子ども世代を育成する場（子ども食堂や子ども会的なイベント）」、②「親世代が安心して楽しく暮らすために集まり情報提供・交換などお助する場（子育て支援ハブ）」、③「子育てを終えた世代が次世代のためのボランティアとして参加できる第二の活躍の場」、そして①「子ども、親世代問わず参加するボランティアスタッフなどあらゆる世代が安全安心にワイワイ楽しく過ごす交流の場」を横断することで「あたごプラザ」に集まる関係人口を増やし、その結果、①～②～③のサイクルを回て活を維持し、定住住人口を維持することで、舞校区を再活性化します。
3	一般社団法人　療誠院	河内長野市	みます会　学修スクール	みます会学修スクールは、子どもたちに「学ぶ機会」と「社会で生きる力」を保障することを目的に、学力向上、人格形成、社会性発達、居場所支援を包括的に行う地域貢献型のハイブリッド支援拠点です。特に発達障害・不登校・経済的困窮など、既行の教育システムだけでは支援が届きにくい小学生7名程度、医療的ケア児や特別な配慮が必要な児童、経済的に厳しい家庭の子どもを対象としています。主な取組は①学力向上支援（基礎学習・受験対策・個別指導）②特別支援教育（発達障害・不登校児への個別対応）③社会性・人格形成（協調性・自己肯定感の育成）④家庭支援・保護者連携（教育相談・子育て支援）⑤教育格差是正（ひとり親・生活困窮家庭支援）⑥医療との連携（訪問看護と協働し医療的ケア児受入れ）⑦地域貢献・人材育成です。これらにより、教育と福祉の狭間にある支援の空白を埋め、誰も取り残さない地域教育モデルを構築します。従来型の学習塾とは異なり、教育・福祉・医療を横断し「学力」「人格」「自立力」を総合的に育成することで、子どもたち一人ひとりが自信と可能性をもって社会に羽ばたけるよう後押しし、地域社会の健全な発展に貢献します。
4	NPO法人フリースクールゆきレオ＆保護猫施設　ゆきレオ保育園	河内長野市	にゃんだふるスクール＆カフェ	助成金に依存しない自走型運営を目指し、複数の収益源を確立します。まず、保護猫カフェの運営により安定的な入場料・飲食収益を確保し、グッズ販売や講開催イベントを通じて追加収益を得ます。フリースクールでは、継続的な保護料収入や個別学習支援サービスを導入し、教育ニーズに応えながら事業性を高めます。子ども食堂は、地域飲食店や農家からの食材寄付、企業のCSR支援を得て運営コストを抑えます。また、クラウドファンディングや会員制サポーター制度を導入し、寄付文化を地域に根付かせることで、資金面の安定化を図ります。地域イベントやワークショップを定期開催し、新規利用者や支援者との接点を増やすことで、関係人口を拡大。行政や地域団体との連携を継続し、地域課題の解決拠点としての役割を維持することで、助成金終了後も持続可能な運営基盤を確立します。
5	特定非営利活動法人青少年自立支援施設淡路プラッツ	大阪市東淀川区	南河内地域に点在する様々な社会資源とひきこもりの若者を繋ぎ社会参加のための出番創出を行う事業	コロナ禍以降の不登校の数は34万人に倍増し、ひきこもりの数は146万人、中でも80/50問題と呼ばれる親が80歳子どもが50歳の高齢ひきこもりの増加を含め大きな社会問題となっている。大和川以南の地域においても、支援機関や居場所が不足していると言われており、ひきこもり支援においても例外ではない。このような状況を踏まえ本事業では、行政や社会的に支援の受け皿の少ない学齢期以降の20歳代～概ね40歳代までの若者で、ひきこもり・ニート・不登校経験にあるかその家族をなど対象とした支援を行う（10代および高齢ひきこもりも含む）。同時に、地域に不足している拠点としての居場所を拡大し若者の出番を創ることで、地域のハブ的な役割を担うことを目指す。 取組の方向性として、以降の「5つの柱」を軸に進行する。①立居場所のリフォーム、②立居場所による「相談事業強化」、③立「相談基盤強化」および「人材育成」、④立居場所を拠点とした「出番の創出」、⑤立地域連携創出（実行会議の開催）、である。これらを通じて、南河内地域に点在する様々な社会資源とひきこもりや生きづらさを抱えた若者と家族を繋ぎ、社会参加のための出番創出事業とする。また、事業開始時から終了後を見据えた拠点基盤強化を図り、地域のステークホルダーと連携協力しながら、終了後の自走型の伴走的な若者支援の継続と地域共生の実現に取り組む。
6	健やかめぐり社	南河内郡河南町	南大阪地域子育て支援ハブ形成プロジェクト	河南町は自然や歴史に恵まれた、のびやかで穏やかなまちです。 しかし近年は、少子高齢化や地域のつながりの薄れから、暮らしの中で孤立や不安を感じる人が少しずつ増えてきています。 共働き世帯も増加する一方で、産前産後ケアや一時預かり、病児保育など、子育てを支える制度がまだ整っておらず、がんばりすぎてしまう家庭も少なくありません。また、高齢の方々も外に出る機会や人と話す場が少なくなり、閉じこもりがちになるケースもあります。 私たちは、そんな世界の「ちょっとしんどいな」「誰かと話したい」という気持ちに寄り添えるような、あたたかい居場所をつくっていきたいと考えています。こども食堂やカフェ、相談スペース、アートや農体験、持ち寄りごはん会などを通して、子どもから高齢者まで多世代が自然に集まれる、まちの中のほっとできる場所でありたい。そして産前産後ケアや、子ども預かりなど、日々の困った、に応えられる仕組みを整えます。日本的には、健やかめぐり社が産前産後ケアの新しい手として町からの委託や補助金を受けられるような、保護者る団体になること。そして「困ったときは、あそこに行ったらなんとかなる」と思える安心の拠点を地域に根づかせることを目指します。子育て世帯が安心して暮らせるまちは、誰にとっても やさしいまちになると、私たちは信じています。
7	社会福祉法人　アトム共同福祉会	泉南郡熊取町	子育て支援と多世代地域交流拠点事業 ～ごちゃまぜハウス～ちびとオカンと、時々爺	【課題】既存の福祉サービスの制度の狭間にあり個別ニーズや家族の支援機関では対応が難しい人たち。孤立により、居場所がなく、必要とする支援が届いていない状況。不登校等により、学習支援を必要とする児童生徒への支援が届いていないという課題がある。 【主な事業内容】 ①相談事業(よろず相談所の開設) ②多世代交流・居場所づくり事業(子育てひろば「ポレポレ」の開設と子育て世代の居場所づくり ③学習支援事業「みんなの寺子屋」により不登校児、発達取得をめざすシングルマザー、日本語習得をめざす外国にルーツを持つ人の学習支援 ④「ゆずりもん市場」 ⑤「勝手にカフェ」「お茶の間ごはん」⑥お互い様のまちづくり事業 【効果】上記の事業の実施により、相乗的には、地域社会に課題や悩みを受け止められる人との関係性が強化され、必要とする社会資源の活用を容易にする人をふやすことができる。また、支援団体、関係機関との連携が深まる。中期的には、事業の必要性が広く理解・認知され、寄付等も含めて事業継続性が保障される。
8	特定非営利活動法人ＦＬＡＴ	和泉市	富秋中学校区等のまちづくりに向けた先行的子育て支援事業	【富秋中学校区等のまちづくりに向けた先行的子育て支援事業】 1．子育て支援カフェによる子育て層向けの飲食業 　→子育てイベント利用者に対して食事の提供を行い、次なる新規イベントの軍資金を調達する（自走できる事業体への転換） 　→地域の子育て層が集まることで自然とママ友が形成される環境となり、子育てしやすいまちへと導与する。 2．子育て支援カフェでの様々な子育て支援 　→子育て支援の質・量の充実、発展により子育て層の心理的負担を軽減する。 　→子育てしやすいまちに変えていくことで、また新たに子どもを産み育てたいと思える環境を目指す。 3．コミュニティインフリッジによる家族家庭への支援 　→在宅に居留する人が気軽に利用でき、また食の確保だけでなく、人との交流や地域資源の循環につながる。 　→また、貧困家庭への支援を継続的に行うことで、子どもへのＤＶやネグレクトの解消へとつながる。 4．麻薬窟・シングルスペース・プレーパークによる地域コミュニティ形成 　→子どもや大人、高齢者までが社会的役割をもち集える環境を提供する。「ここに来れば誰かと会える」といった地域コミュニティの活性化を図る。 5．調査研究の発展による新たなイベント考案・実施 　→従来はシーズ志向による独自の感覚でイベントを実施していたが、本事業より調査研究に人員を割き、地域ニーズを的確に反えたイベントにシフトする。
9	特定非営利活動法人モモの木	堺市北区	堺市地域子育て支援ハブ形成プロジェクト	NPO法人のこちょ上げから4年間も地域の居場所として根づいてきたが、深く関われば関わるほど、行政制度の狭間で孤立しまきづらさを抱える家庭が非常に多い。生活課題が複雑化し1つの制度だけでは解決できない、支援が必要だが制度を利用できる要件を満たしておらず生活が困窮する家庭がある。なんとか支援したいが現在の体制では金銭面、組織体制（人手不足）の面でも継続することだけで精一杯で、加えて専門性を持つ人材も不足している。 本事業では注重層的支援ゾーニング事業の継続ができるよう運営の基盤を強化することを柱とする。 ①は専門性を持つスタッフ（保育士、社会福祉士、ソーシャルワーカーなど）を配置し、潜在的に支援が必要な家庭を見つけ出す。ひとり親家庭やヤングケアラー家庭への家事支援ヘルパー部門のこちょ上げ、モモのネエと保健関係者も横断しながら行政に繋げ、支援家庭と伴走していく。また定期的なスタッフ研修会やケース会議を開き重層的に支援できる体制を作る。②は継続的のために事業運営の組織基盤を強化していく。各部門ごとに専任のメンバーを配置し、代表以外のかんメンバーも同様に携わっていく これまで地域で継続的に活動してきた強み・保護者をかし頂でも来ていく場所、相談しやすい地域のハブ拠点としての存在を高める。 モモの木の重層的支援により、問題が深刻化する前に相談してもらい生きづらさを軽減させ、子どもたちを取り巻く環境が改善される。
10	一般社団法人カンデ	兵庫県丹波市	美加の台みんなの居場所づくり事業 ー多様な主体の協働による地域まちづくり活動拠点整備と持続的なまちづくり活動環境構築のための関係づくりー	本事業は、1984年分譲のニュータウン美加の台において深刻化する少子高齢化、人口減少、地域のつながりの希薄化、子どもや若者の孤立といった社会課題に対応するため、スーパーの空きテナントを活用し、誰もが立ち寄れる常設型の居場所拠点を整備するものである。 拠点の基本運営としてカフェを運営し、日常的に住民が利用できる収益基盤を確立さ せ、その収益を原資に、子どもの学習支援や子育て世代の相談支援、高齢者や生活困難者に対する有償ボランティアによる生活支援など、地域の多様なニーズに応える公益的事業を展開する。また、地域住民・大学・行政・貧困事業者による「実行会議」を設置し、定期的に課題共有・検討することで、地域の課題解決を継続的に推進する体制を整える。 収益面では、カフェ売上を安定的な事業収入とし つつ、イベント実施やワークスペースとしての利用など、複数の事業を重ね合わせたり、生活支援の一部を有償化することで利用者の負担能力に応じた費用負担を組み込み、助成金終了後も収支相償以上で運営できる持続的な環境を形成する。将来的には行政・大学との連携による事業受託を進めることで、複数の収入源を確保し、持続的な事業展開を可能にする。 本事業では、社会課題の解決と自立的な収益構造の確立を両立させ、地域に根差した持続可能な活動拠点を創出し、孤立防止や子どもの育成支援、安心して住み続けられる環境形成を目指す。

11	特定非営利活動法人アートコミュニティ	河内長野市	アートで心を癒す子どもの居場所ヒーロー研究室	子どもの居場所「ヒーロー研究室」を運営。運営は、アートの指導者のグループで構成。学童へ行けない子・行かない子や、母親たちを主にアートでふを開放する子どもの居場所事業を柱として、アートを軸にしたプログラムを展開する。居場所に来室した子どもたちは、自付をつけれを押すネームカードをそれぞれ作成。来室をお互いに確認出来るシステムにしている。利を押すと、軸3段深える。このシステムは、小遣いを貰い お菓子を持っている子に対して、たとえ3つでも軸を持っている事で、小遣いを持つ子との格差を縮めることが出来ると考え、始める。高校生になって「強かし！」とやってきた男子が、名簿を見つけ ガチャガチャ ガチャを し、軸を 3 個取り、顔やかに部屋にいる時もあり、続けてきて良かったと思う期間である。自由に接ける水彩画でのお絵描きは、子どもたちに安心 ダを与えるツールになっている。その他、マンガ・絵本・美術書・歴史 漫画など数多くあり、部屋の片隅で読書をしている子が増えている。自分の世界に没頭できる環境の大量のレゴも、子どもたちのお気に入りの一つである。また、市教育推進訪問の放課後教室・市内・市外団体・障物親などのイベント開催依頼に、アートを取り入れた企画を提案し、継続く参加する。
12	一般社団法人泉大津・発達支援勉強会Lien	泉大津市	親と子を支える！安心できるセカンドホームで発達支援プロジェクト ～地域と専門家で育む、親と子の未来につながる居場所～	人的物的環境共に安心して過ごせる「7つめの自宅"環境」を整えることで、発達障がいやその傾向のある子ども自身のパフォーマンスが最大限に発揮できる拠点を、市民が気軽に活用出来る常設拠点として設置する。拠点設置により、地域社会のニーズを明確化し、家庭のみで地域から孤立していた家族が安心して社会と繋がる機会を保す。 本拠点では、以下の場を設置する。 ①オープンプレイス 平常知 と自知 では人や過ごす子ども達が、子どもと大人の保親関係とコミュニケーションを軸としたお互いの育ちあいの場となり、安心して日中過ごせる場所を設置する。 ②カフェスペース ドリンクとパンや焼き菓子等を提供する一般利用可能なカフェスペースを設置する。焼き菓子等は就労継続支援事業所で製造されたものを提供し、運営スタッフは、継続就労が難しい「発達障がいのある子どもを持つ保護者」や「成人当事者」が担う。 ③じぶんラボ 子ども達が自分の長所や短所に気付き、弾最な部分を活かし苦手なところを工夫して生きていけるように、それぞれの子どもに合わせて主体的に学べる機会となる「子どもの個別プログラム（学習支援や自己理解プログラム）」を実施する」場所を設置する。 ④Lienラボ 大人が学び合う場所として、思春期ペアレント・トレーニング(全10回) やアンガーマネジメント、親なきあとのお金の話セミナー、発達専門医療の心理士との座談会などを定期開催。
13	株式会社リぷりす	堺市南区	地域共生型「第三の子どもの居場所」創出事業☒ 子どもたちが共生して創造できるスペース「アトリエッタ」☒	1. 子どもたちのための活動 食事の提供: 子ども食堂を運営し、平日の夕食（週3回）と土曜日の昼食を提供します。 学習と遊び: 子どもカフェと子ども図書館／学習室を併設し、平日の午後を中心に開館します。ここでは学校の補習に加えて、コンピューター・ロボット、また調理などの時定のスキルの学習、子供達同士の交流と遊びの場を提供します。 イベントの開催: 週末には、親子向けの交流イベントや子ども向けの多様なイベントを開催します。計画イベント事例：食育教室、パン屋さんケーキ屋さん見習い体験、バリスタ体験、ものづくり見学／小さな工房、デザインワークショップ、子どもカフェ及び子ども食堂のメニュー開発。 2. 地域との連携と交流 世代間交流: 子どもカフェに近隣住民を招き、子どもたちとの世代間交流を促進します。 食育と連携: 近隣の宅地での野菜（トマトなど）栽培を推進し、収穫した食材を子ども食堂で利用することで、食材費の削減と子どもたちの食育につなげます。 ボランティアの育成: 地域住民が自身の特技を活かして子どもたちに教えるスキルシェアリングの機会を設けることで、多様な人材が運営に関わるきっかけを作り、ボランティアの継続的な確保を目指します。
14	ＮＰＯ法人こども夢教室	高石市	もやもやキャッチャーラボ	これまで点で行ってきた活動をひとつに集約した拠点で、私たちは社会の一員として地域に関わり、「もやもや」をちょっといい未来にするアイディアに変え、ワクワクの社会をカタチにしていく、発見と実践を行います。ここは、いつでも・誰かと繋がる拠点です。 実践化するのが難しいそれぞれの思いや違和感を、私たちは発見し、社会課題解決に向けて活動しています。そのために大きく４つの事業をおこないます。①たたいていい居場所②自分を知る学びの場③ほっこり親カフェ③地域と繋がる・社会と繋がる共作場。の４つの事業でひさな声をより多め細かく拾い上げています。①声なき声を発見する力をつける人材育成に取組み、利用者に安心な場所の提供を行います。②これまで多くのこどもの「どうせ」の実験を目にしてきました。「どうせ」と諦める前に自分は何をしている時が楽しいのかなど自己発見し、自分のいいとこ探しを一緒に行い目標立ての手伝①親が笑っていることがこどもにとっては一番。こどもたちのために親が元気でいられるよう、思いを話したり悩解ったり、また進路の情報提供などを行います活私たちの強みである繋がりづくりの力を最大限に活かしこどもたちの目標設定の進しべくとる企業による仕事内容紹介、並びに市内企業の協力による工作キットの販売、おにぎりカフェ、こどもの預かりといった収益事業を行い、資金調達と「繋がる」をテーマに事業展開を行います。
15	特定非営利活動法人おかん家	岸和田市	暮らしに橋を架けるみんなの居場所プロジェクト	本事業では、地域の人と人がつながることで、子ども・若者・地域の人が安心して住み続けられることを目的に、主に３つのこと（①常設の居場所の開設、②マーケットの実施、③実行会議の構築）に取組む。 ①常設の居場所の開設 常設の居場所では、フリースクール、カフェ、子ども食堂、英語教室、デザイン相談所、就労サービスなど多様のプログラムを実施することで、地域に開き、誰もがいつでも集いやすい環境を提供する。 ②マーケット実施 常設の居場所へのアクセスポイントとして、定期的に、あらゆる人が普通的に訪れることができる公園や公共空間、地域のシェアスペースなどでマーケットを開き、常設の居場所に訪れることにハードルを感じる人への支援や地域のつながりづくりを行う。 ③実行会議の構築 本団体のみならず、岸和田市・社会福祉協議会・国際親善協会・学校などの公的セクター、自治会やNPOなどの市民団体などを含む実行会議において、支援のネットワークを構築し、本団体だけでは解決が困難なケースの対応を実行会議を通じて、支援を行う。